

一五九二メートルの山も仙人にとっては、ちよいと散歩。



火の国 阿蘇の
恵みのブランド

阿
azen
A s o C i t y

仕事が多忙で、若いときには登山などできなかった。

四十歳過ぎて「阿蘇にのぼる会」に入会し、山の魅力に開眼する。

藪亀勲さんの本業は建築業、腕の立つことで知られる大工さんだ。

「屋根は登れば揺れるが、山は登っても揺れんけん」

北アルプスなど名山をしつちゅう踏破している。

けれども、阿蘇の高岳のすばらしさはちよと他にはない、

そう明言します。

長年、阿蘇山遭難事故防止対策協議会の理事として、

登山客のガイドや、事故を未然に防ぐためのサポートに携わっている。

すでに古稀を過ぎてはいるが、並みの健脚ではない。

朝起きて、ふらりと高岳（一五九二メートル）に登って降りて、

それから仕事に出かけるなんてこと、

この仙人であり鉄人にとって珍しくない。

「いつだったか四日間で十一回登ったけど、ちつとも飽きなかったね」

阿蘇山遭難事故防止対策協議会 藪亀勲

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。